

来週の市場とレート予想

	4/17(月)	4/18(火)	4/19(水)	4/20(木)	4/21(金)
無担保O/N			△0.086% ~ 0.001%		
銀行券	+ 600	ト ン	△ 1,000	△ 2,000	△ 3,000
財政他	△ 20,000	△ 1,000	+ 1,000	△ 33,000	ト ン
資金需給	△ 19,400	△ 1,000	ト ン	不 35,000	不 3,000
主な要因	国庫短期証券発行・償還(3M) 国債発行・償還(2年) 国債発行(30年)			国庫短期証券発行・償還(1Y) 国債発行(5年)	交付税特会借入・償還
オペ期日	共通担保(全店) △ 3,000 CP等買入 △ 500 社債等買入 △ 100 国債補完供給 + 3,500				被災地支援 △ 1,100
オベスタート	共通担保(全店) + 2,700 ETF買入 + 300	国債買入 + 9,300 短国買入 + 15,000	CP等買入 + 3,500		
(日本)	黒田日銀総裁が 信託大会で挨拶 業態別の日銀当座預金残高 (3月)	ベンス米副大統領が来日(19日まで)	日銀が金融システムレポート発表	貿易統計(3月)	主要銀行貸し出し動向 アンケート調査(4月) 第3次産業活動指数(2月) 日銀金融システムレポート別冊 「マクロストレステストについて」
(海外)	米 FRB副議長講演 米 ニューヨーク連銀製 造業景況指数(4月) 米 NAHB住宅市場指数(4月) 中 GDP(1-3月)	IMF、世界経済見通し(WEO) 米 住宅着工件数(3月) 米 鉱工業生産(3月) 米 カンサスシティ連銀総裁講演	米 地区連銀経済報告 (ヘージュブック) 米 ボストン連銀総裁講演	G20財務相・中央銀行総裁会議 (ワシントン、21日) 米 新規失業保険申請件数 (前週分) 米 ハウエルFRB理事講演	IMF・世銀の春季総会 (ワシントン、23日まで) 米 中古住宅販売件数(3月) 米 ミネアポリス連銀総裁講演 欧 ユーロ圏総合PMI (4月、速報値)

【インターバンク市場】

無担保ターム物	予想レンジ
SPOT 1M	△0.03 ~ 0.001
SPOT 2M	△0.02 ~ 0.001
SPOT 3M	△0.02 ~ 0.001
SPOT 6M	△0.01 ~ 0.001

<インターバンク>

日銀当座預金残高は週初、短国の発行を主因に前週末比3兆900億円減の34兆3,200億円から始まった。11日には短国・国債買入オペを主因に347兆5,300億円まで増加し、13日まではほぼ横ばいで推移した。14日は年金定時払いで大幅に増加し356兆8,400億円を越えた。無担保コールON物は、前週の流れを引継ぎ、しっかりと地合いが13日まで続いたことから、加重平均金利は△0.037~△0.034%で推移した。積最終日となる週末のON物は、積期間を跨ぐことと、年金定時払いで大幅余剰日にあたるため、調達サイドは慎重な動きとなった。加重平均金利(速報)は△0.047%まで低下して越えた。ターム物では新積期となる17日スタートの1W物~2W物を中心に△0.02%~△0.03%での出合が多くみられた。来週は、海外で、ERB副議長講演(17日)、ページブック(19日)、G20財務相・中央銀行総裁会議(20~21日)などが予定されている。

【オープン市場】

CP3M(a-1+)	0.000 ~ 0.005
TDB 3M	△0.100 ~ △0.200
現先(on/1w)	△0.100 ~ 0.000

<CP>

今週の入札発行総額は約5,900億円で、卸売、石油やノンバンク業態等の大型発行があったことから、週間償還額の約2,600億円(金融機関・ABCP除く)を上回る結果となった。新発物の発行レートについては、投資家の旺盛な運用ニーズにより0.001%割れと、ほぼ横ばい推移の出合いとなった。来週の発行市場は、五・十日絡みでの発行が予想されるため、償還額の約2,800億円に対し増加すると思われる。発行レートは、投資家の旺盛な運用ニーズにより、引き続き横ばい推移となるだろう。現先レートは-0.1%~0%程度の出合いで、低位横ばい圏での動きを予想する。

<TDB>

13日に国庫短期証券3M第676回債の入札が行われ、最高落札レートは△0.1070%(前回債△0.1303%)、平均落札レートは△0.1213%(同△0.1431%)と前回債から利回りが上昇した。セカンダリー市場では△0.105%近辺の地合となっている。6M、1Yは目立った出合いは見られなかった。来週は18日に1Y、20日に3Mの入札が予定されている。

<レポ>

足許GCは週初△0.02%台から始まったが、積最終日前後にかけて一部資金調達を手控える向きが見られ、14日受渡しでは△0.06%台で多く取引された。17日受渡しは、△0.06%近辺からスタートしたがレートは低下基調、△0.09%近辺の出合いも見られた。週末には国債・国庫短期証券買入オペがオファーされ、一段とレートが低下する展開。△0.10%近辺の取引が中心となった。SC取引では、週を通して5年債130回債、131回債のbidが多く、共に週後半は△0.60%台の取引が中心となった。他2年374・375回債、5年130回債、10年333・334・344・345回債、20年158・159回債、30年52・53・54回債などに引き合いが多く見られた。

本資料は投資環境等に関する情報提供を目的として作成したものです。本資料は投資勧誘を目的とするものではありません。有価証券等の取引には、リスクが伴います。投資についての最終決定は、投資家ご自身の判断と責任においてなされるようお願いいたします。当社は、いかなる投資の妥当性についても保証するものではありません。記載された意見や予測等は作成時点のものであり、正確性、完全性を保証するものではなく、今後予告なく変更されることがあります。